

ホスピス緩和ケアネットワーク登録施設研修会&平成29年度 第3回福岡東在宅ケアネットワーク介護職員研修会まとめ

「看取り教育、介護施設の立場から」を統一テーマとして、以下2つの発表を受け、参加者間で討議をしました。

1. 「ゼロからの看取り体制構築」
～最後の時間を穏やかに過ごして頂くために～
2. 「小規模多機能ホームでの看取り」
～状態悪化を繰り返し看取りに至った事例～

今回は、「福岡東在宅ケアネットワーク」と「ホスピス緩和ケアネットワーク福岡」との共催と云う初めての試みでした。「ホスピス緩和ケアネットワーク福岡」は平成21年から介護職員のための研修に取り組んでいる先輩団体で、今年度から遅ればせながら介護職員研修を開始した福岡東在宅ケアネットワークの第3回研修会と位置付けて行われました。

参加者は、訪問介護事業所・小規模多機能ホームの他、グループホーム・サービス付高齢者住宅・特養・有料老人ホーム等で看取りを既に展開している事業所やこれからチャレンジ検討を計画している事業所などの介護職員を中心に、医師・訪問看護 St 看護師・MSW・CM・社会福祉協議会等、幅広い集まりとなりました。

最初の発表者：小林英絵さん（介護付き有料老人ホーム フェリオ百道ホームマネージャー）からは、医師から「余命1年と診断」をされた入所者に対し、何が出来るか家族と共に介護スタッフが考え計画・実践した経験をどうし、課題を抽出し克服・検討してきたことを紹介されました。

次の発表者：山下裕美さん（小規模多機能ホームのどか管理者）からは、訪問診療医との密接なかかわりの中から多くの事を学び、介護スタッフの自信と次へのステップアップにむすびついた発表で、訪問診療医の適切な介入を強調した発表でした。

小林さんの発表によって、集まった介護スタッフは看取りのイメージを極めて鮮明に受け止めることができ、明日からの仕事にすぐ役立つものとなりました。ありがとうございました。

山下さんの発表は、「延命処置」の内容を医師から具体的に説明してもらい、介護スタッフや本人・家族がイメージし易くする中で、本人・家族がより適切な判断ができるようにサポートすることの重要性を強調されたもので、介護施設/事業所は、医師の説明の場・環境作りを行うことの重要性を知りました。さらに、「急変時」の内容は、医療従事者・本人・家族・介護職員・介護支援専門員など各々にイメージの相違が発生しやすく、患者の状態悪化のタイミングで、その都度、医師から説明を詳細にしてもらい情報の共有を、関係者間できちんと行う必要があることを知りました。

今回の研修は、次回へ繋げるステップアップ研修としての意味合いも持った企画で、今後、以下の3つの取り組みを考えたいと思いました。

- ① かかりつけ医を含めたアドバンスケアプランニングを行っているか。
(在宅療養生活についてのプランニングに主治医が介在していくことの重要性)
- ② 訪問看護師との連携（訪問看護指示・特別訪問看護指示）
- ③ 「かかりつけ医」は本人の状態や状況の変化に応じて変更できるのか。
(かかりつけ医の専門性や特性を生かすことができ、患者本人に有益となるのでは)

文責 原土井複合型サービス 管理者 中村美保子